

# 【他社留学事例】

## 次世代リーダー育成

エッセンス株式会社

## ～目次～

ピジョン株式会社×MIKATA 株式会社様	P2
SMBC コンシューマーファイナンス株式会社×EDGE 様	P8
カゴメ株式会社×株式会社アルプロン様	P13
株式会社テレビ朝日×ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス合同会社様	P17

## ビジョン株式会社 × MIKATA 株式会社様の導入事例

「修羅場体験を通じてリーダーシップと主体性が身に付いた」

(職種：IT 推進、留学頻度：週 1 日、留学時：新卒入社 9 年目)



他社留学を終えて元の職場に戻った「卒業生」にインタビュー。留学前、留学中、留学後の想い、そして「留学後に何が変わったか」について、体験談を語っていただきます。

所属	ビジョン株式会社
留学先	MIKATA 株式会社
他社留学期間	週 1 日 / 3 ヶ月間 (2021 年 10 月 ~ 2022 年 1 月)
留学した人	IT 推進部 IT 販売グループ 島崎 慶さん (留学時：新卒入社 9 年目)
送り出した人	IT 推進部 チーフマネージャー 新井 貴治さん

今回お話を伺ったのは、ピジョン株式会社。他社留学を経験したのは、IT推進部の島崎さんです。留学先は、EC・通販業界特化のメディアポータルサイト「ECのミカタ」を運営するベンチャー企業、MIKATA 株式会社です。留学中は、ECのミカタのコンテンツを検討、進行するプロジェクトに携わりました。

目的	外の世界を観ることで新しい視座、価値観を培う環境を創りたい
背景	新しいことにチャレンジでき、スピード感のある人材を育成する必要があった
効果	修羅場体験を通じてリーダーシップと主体性が身に付いた／軸を持つことの重要性に気づいた

## 自ら手を挙げて始まった他社留学

――まず初めに、他社留学に参加した背景をお聞かせください。

**島崎さん（以下、島崎）** 今回の留学は社内で公募があり、自ら手を挙げて決定しました。昨年留学された方の留学報告会で「忙しいながらも色々な学びがあった」ということを聞いていたこともあり、以前から興味を持っていました。応募した理由は3つありました。1つ目は、他の会社を知るためです。私は今年で新卒入社9年目になるのですが、転職経験もないので他の会社を知って**視野を広げたい**という想いがありました。2つ目は、自分の**強み・弱みを棚卸し**することで、新しい発見をしたいと思ったことです。3つ目は、**自己成長**のためです。私が所属している部署が色々な事業に関わっており、9年目ということによりリーダーシップが求められる年代ということもあり、留学を通して成長することで貢献したいと思ったからです。

留学中は、現在私が携わっている公式オンラインショップの運営におけるサービス向上にすぐに還元できるものを学ぶこと、またデジタル業界に関する知見を広げ、リーダーとして部署を引っ張っていける存在になることを目標にしました。

――留学中は実際にどんなことをされていたのですか？

**島崎** 新規プロジェクトのリーダーを任せて頂き、プロジェクトの考案から実現まで任せて頂きました。社員の方と打合せを重ね、他社メーカー様との座談会を企画実現しました。また、今回のプロジェクトをきっかけに、留学後にもMIKATA 株式会社様の資産として残っていくような長期プロジェクトの検討、走り出しにも携わらせて頂きました。

### ▼ECのミカタ

ネットショップ運営する人・企業のための完全無料で使えるビジネスポータルサイト

URL : <https://ecnomikata.com/>



――他社留学を終えて今はどんな感想をお持ちですか？

**島崎** **チャレンジして良かった**、というのが率直な感想です。MIKATAさんがアットホームな会社だったので、色々助けていただきながら無事留学を終えることができ、今はホッとしています。最終日に一人一人ご挨拶させていただいたのですが、「3ヶ月しかいなかったんですね、もっと長くいたと思いました」という言葉

をいただき、嬉しかったです。**お互いにとって濃い充実した時間を過ごせた**と思います。

## 自ら動き出さないと何も始まらない環境に入って

――他社留学に参加して良かったと感じた一番の理由は何でしょうか？

**島崎** ピジョン以外の組織を知ることで、**今までの仕事のやり方を考え直す機会になった**からだと思います。留学先では、自ら動き出さないと何も始まらない状況でした。改めて考えると、留学前は主体的に動くというよりは言われてやることの方が多かったような気がします。留学中に**自分から動くことを体感できた**ことが何より良かったと思います。

――留学先では自ら動くように変わったのですね。

**島崎** そうですね、留学先ではプロジェクトリーダーを任せてもらえたので、他責にできない環境でした。**誰かに仕事を依頼するにしても、自分の責任**として捉えていました。今までであれば、自分の仕事だけが良ければそれでいいと思っていたのですが、今回は違いました。これまでピジョンでもプロジェクトリーダーを任されたことは何回かあったのですが、新卒で入社した会社で周りも知っている環境だということもあり、その**環境に甘えていた部分**があったのかもしれません。



(写真：島崎様)

――修羅場体験だなと感じたことはありましたか？

**島崎** 初めから自分で考える、主体的に動く**挑戦の連続**だったように感じます。一つのプロジェクトのリーダーを任されるのが決まって、すべて任せて頂いたので、主体的に様々な事を決めて動かしていく必要があったので、最初から新鮮でした。こういった経験があって、主体性が鍛えられたんだと思います。

## 留学中にできたこと・できなかったこと

――最終的に何か成果を残すことはできたのですか？

**島崎** まずは任せてもらったプロジェクトをきちんと**完遂することができた**というのが一つの成果だと思います。それから、今回プロジェクトが始まる時にプロジェクトをやって終わりとするのではなく、プロジェクトが終わっても続いていくような**長期的に MIKATA さんの資産になるもの**を残すことを目標にしていました。今回のプロジェクトが継続プロジェクトとなり、そのスタートを切れたことは MIKATA さんにとっても価値になることを提供できたと思います。このような形で終わることができたのは、自分が主体的に動いたからというのがありますが、**留学先 MIKATA の皆様のご協力があったおかげ**です。常に関係者と密にコミュニケーションを取ることを意識していたのも良かったのではないのでしょうか。

――では、逆にこの部分はもっとできたかもしれないと感じたことはありましたか？

**島崎** そうですね、MIKATA さんの仕事の進め方は特定のプロジェクトメンバーで物事を進めるというより「みんなでやっぺいこう」というプロジェクトの進め方をします。今思うと、もう少し多くの方を巻き込みながら進めることもできたのではないかと思います。また、留学後半になるにつれて、議論すればもっとこんなこともできたかもしれない、と思うこともありま

した。柔軟性は自分の成長課題だなと感じました。

— 今回の他社留学を通して、ご自身の成長を感じられたのはどんなところですか？

**島崎** まずは**リーダーシップ**ですね。今回留学先でプロジェクトリーダーをやらせていただきましたが、どうリーダーシップを取っていけばいいかわかっていなかったで、試行錯誤しながら進めていきました。プロジェクトはなんとか皆さんの助けもあって進めていくことができたのですが、改めてビジョンでリーダーシップを発揮できていたか考えてみると、自分から発揮しようとしていなかったことに気づきました。甘さがあったこと、受け身になってしまっていたことを痛感しました。また、それと同時に今回の経験を通してリーダーシップを取っていくことの**自信に繋がりました**。

それから、先ほど申し上げた通り、今回のプロジェクトは長期的にMIKATAの資産となるようなものを目指して取り組んでいたもので、どういう形だったら残っていけるか**長期的な目線で考える視点が鍛えられた**と思っています。自分がいなくなった後に何が必要なかを議論させていただき、抽象度が高い目標を立ててそこから具体的なアクションプランに落とし込んでいくことを学ぶことが出来ました。また、私はビジョンで公式オンラインショップを運営しているのですが、他社でオンラインショップを運営している方と話してみたかったので、留学中に座談会を企画することで話す機会を作り、**他の業界の知見を増やすこと**ができました。

## 留学を通しての気づきと今後に向けて

— 他社留学を通して、どんな気づきがありましたか？

**島崎** 今回の留学を通して、仕事をする上で大事なことに色々気づかされました。まずは、リーダーとして**全部自分でやらない**ことも大事なことだと気づきました。プロジェクトを進めて

いく中で周りに仕事ををお願いすることも大事なことで、お願いする場合も遠慮しなくていいんだと思えるようになりました。今までは全て自分でやろうとして時間がなくなり、中途半端で終わってしまうこともありました。より良い成果を上げるためには、自分でやるべき仕事と周りをお願いする仕事を見極めて、周りと役割分担しながら協力して進めることが大事だとわかりました。また、周りをお願いするときは、**相手を信じて任せる**こと、も大事なんだと思いました。

また、今回の留学中に自分のコミュニケーションの取り方は今のままでいいと確認することができました。ただ、**言うべきことは言うことの必要性**も感じました。元々、相手はどう思うかを考え過ぎてしまって、言いつらいことを上手く伝えられないところがありました。そういった場面でも、共通の目標があれば相手も納得感が生まれるので、相手の感情より言うべきこと言うことが大事だと気づきました。



(島崎様：写真中央)

それから、**軸を持つこと**も大事だと思いました。これまで自分の中に軸がなかったので、選択する時には何を優先すべきなのかわからず、人に対してもとりあえず優しくするという姿勢でいました。しかし、自分が譲れないもの、大事にしたいものの判断軸を持っておくことでより円滑に仕事を進めることができるようになったと思います。

——色々大事なことに気づかされた3ヶ月だったのですね。「軸」に関しては、留学先でのどんなところから学ぶことが出来たのですか？

**島崎** MIKATAさんでは、ビジョン・ミッション・バリューを大事にしており、毎日共有する場を設けていました。「働くを楽しくを追求しながら仲間と共創することで5方よしの世界を広げ続ける」というビジョンが軸としてあり、何をするにしてもそれが起点にあって、あらゆる場面に落とし込まれていました。**社員全員がこのビジョンを自分事化しており、組織をみんなで作り上げている**と感じました。

MIKATAさんでは全てがプロジェクト制で、自ら手を挙げることで仕事が決まります。手を挙げなければ仕事来ない組織体制を取っていて、全社員が会社全体の仕事に対して自分事化しているようでした。1年目、2年目でも積極的に手を挙げている社員もおり、刺激を受けました。主体性が磨かれるすごい環境だと思いました。

——今回の留学で得たものを、今後どうやってビジョンで活かしていきますか？

**島崎** 「軸」に関して言えば、ビジョンでも活かせることだと思いました。仕事を始めるときには、**まず何のためにやるのかを明確にして、その明確にしたものを軸にする**ところから始めます。その軸があれば、ぶれた方向にはいけませんよね。留学先では、プロジェクトの途中で何をするか議論していたのですが、そのようなときも「そもそもなぜやるのか？」に立ち返っていました。当社でも一緒に仕事を進めるメンバーが目的を見失ったときは、私から「なぜやるのか」問いかけて、**メンバー全員で目的を再共有**して進めていきたいと思っています。

また、今回の留学では思っていた以上に、ITスキルよりも**ビジネスの姿勢**を学ぶことができました。私の所属部署は新しい事業を推進していく部署です。どんな仕事も自分事化して**覚悟と危機感**を持って仕事に取り組むことを意識していこうと思っています。そういったことが結果として、主体性とリーダーシップに自然と繋がっていくはずです。当社の公式オンラインショ

ップは開始してまだ3年目です。まだまだやれることはたくさんあります。今回の留学で学んだことを活かせる機会はたくさんあるので、**他責にすることなく主体性を持って積極的に**取り組んでいきたいです。引き続き、MIKATAさんで学んだことをどう当社に合った方法につなげるかを模索していきたいです。

——留学中、伴走者がサポートしていましたが、いかがでしたか？

**島崎** 留学中は週次でレポートを報告し、それに対してフィードバックをいただいたのですが、自分で気づいたことに対して**さらに深く考えさせられるような投げかけ**をしていただきました。そのおかげで自然と学びを深めていくことが出来たので、非常に感謝しております。また、自分がもっと踏み込まないといけないタイミングでお声がけいただき、色々サポートしていただきました。



(島崎様：写真左から2番目)

——では、最後に他社留学にはどんな人が参加すると思いますか？

**島崎** 自分の会社しか知らない人がいいと思います。あとは、リーダー経験があまりない人がいいのではないのでしょうか。私のように主体的に動かざるを得ない環境になることで、リーダーシップが磨かれると感じます。

< 留学先からのコメント >  
 ～MIKATA ホールディングス株式会社  
 代表取締役社長 小林様より～

今回の留学は、当社にとっても非常に良い機会となりました。私共のような組織は、大手企業の方々がどのような思考で、どのような働き方をしているのかを知り得る機会が多くありません。今回、島崎さんが来てくれたことで、大手企業の方の動き方や思考を第三者的に知ることが出来たのは組織として大きかったように思います。

また、ビジネスの成果としても新しいサービスに繋がるコンテンツが出来上がり、非常に助かりました。回を重ねるごとに積極性が増し、自ら声をかけたり、段取りを決めたりと動きが変わっていったのが分かりました。また、自ら積極的に和の中に入れてきてくれたので、非常に

良いコミュニケーションができました。今後はさらに良いものを作り出していく柔軟性やピジョンを背負う覚悟と主体性を持つことを意識して仕事を進めていただきたいと思います。3ヶ月間ありがとうございました。



(島崎様：写真右)

会社名	ピジョン株式会社
業種	その他製造業
事業内容	資産育児・マタニティ・女性ケア・ホームヘルスケア・介護用品等の製造、販売および輸出入、ならびに保育事業
URL	<a href="https://www.pigeon.co.jp/">https://www.pigeon.co.jp/</a>



# SMBC コンシューマーファイナンス株式会社 × EDGE 様の導入事例

「新たな仕事の進め方を習得し、経営者目線を持つことの大切さを学んだ」  
(職種：人事、留学頻度：週1日、留学時：新卒入社8年目)



他社留学を終えて元の職場に戻った「卒業生」にインタビュー。留学前、留学中、留学後の想い、そして「留学後に何が変わったか」について、体験談を語っていただきます。

所属	SMBC コンシューマーファイナンス株式会社
留学先	EDGE 株式会社
他社留学期間	週1日/3ヶ月間 (2021年12月~2022年3月)
留学した人	人事部採用グループ 三瓶 剛史さん (留学時：新卒入社8年目)
送り出した人	人事部 主幹 中村 幸一さん

今回お話を伺ったのは、SMBC コンシューマーファイナンス株式会社。他社留学を経験したのは、人事部採用グループの三瓶さんです。留学先は、人事課題解決に特化した HR テック「エアリー」シリーズの開発、ワークエンゲージメントの実現に関するコンサルティングを行うベンチャー企業、EDGE 株式会社です。留学中は、クロスセル・アップセルにより売り上げ向上を図る仕組みづくりに携わるプロジェクトに参画しました。

目的	スピード感のある仕事の進め方、異業種の仕組み・ノウハウの獲得および社外と比較した自身のスキルレベルの把握
背景	異なる業界や企業を経験できる機会を作り、リーダー人材を育成する必要があった
効果	新たな仕事の進め方を習得できた／自身のスキル・所属企業について客観的に見ることができた／経営者目線を持つことの大切さを学び、視座が高まった

## 様々な期待を胸に、初めての社外活動に参画

――まず初めに、他社留学に参加した背景をお聞かせください。

**三瓶さん（以下、三瓶）** 今回は上司からの指名を受けて、参加することが決まりました。私は元々好奇心旺盛な性格で、学生時代にはベンチャー企業でインターンをしたり、ボランティアをしたりしていました。しかし、社会人になってからは社外での活動に携わることができていなかったため、他社留学に参加する機会をいただくことができありがたいと思いました。留学前は楽しみな気持ちもありましたが、不安もありました。

――他社留学にはどんなことを期待して参加しましたか？

**三瓶** 仕事をしている中で、当社は異業種との関わりが少なく、新しいアイデアや取り組みが生まれにくい環境であると感じていました。そこで今回の留学を通して、**異業種の仕組みやノウハウ、スピード感を持って取り組んでいる他社の仕事の進め方**などを学びたいと思っていました。また、私は転職経験がないので、社外と比較した**自身のスキルレベルの把握**もしたいと考えていました。

――他社留学中はどのようなプロジェクトに携わったのですか？

**三瓶** EDGE 株式会社では、3ヵ月間「クロスセル・アップセル」により売り上げ向上を図る仕組みづくりに携わりました。具体的には、EDGE 株式会社が開発するエアリーフレッシュャーズクラウドを利用しているお客さまのニーズに合わせたアプローチ方法の検討や他に展開するサービスでお客さまのお役に立てないかを模索することに取り組んでいました。

▼「エアリーフレッシュャーズクラウド」―新卒採用に特化したコミュニケーションツール。詳細はこちら→<https://fresher.jp/>



## 気づきを得て行動変容を続けた3ヶ月

――プロジェクトを進めるにあたって、どのように留学先の方とコミュニケーションを取っていったのですか？

**三瓶** 今回はフルリモートでの業務だったので、1ヶ月目は自分から能動的なコミュニケーションが図れませんでした。留学先の担当の方がとても忙しい方だったので、こちらからアクションを取らないと何も進みませんでした。担当以外の方とのコミュニケーションに関して、自分から作ろうとしない限り増えていかなかったのが、自分から能動的に動いていくことが大事なのだと気づきました。

その反省を踏まえて、2ヶ月目以降は「できることはないですか?」「今〇〇で困っているのですが、これまではどうやっていたのですか?」など積極的に自らコミュニケーションを取るよう変えました。そうしていく中で、徐々に留学先の方から採用担当者としての意見を求められるようになっていき、自分の役割や存在意義を見出さずにはいられなくなりました。それが今回の留学における自分の中での大きな成果だったかなと思います。

また、コミュニケーションの量が増えることで、留学期間中に自分が何をすべきか徐々に明確になっていきました。留学先の現状やこれまで実施してきたこと、うまくいかなかったことなど、色々な情報を聞いたうえで、留学先に意見・提案できたことが良かったです。



(写真：三瓶様)

――プロジェクトは順調に進めることができたのですか?

**三瓶** 1ヶ月目はこれまでの会社での仕事のやり方と同様に、留学先の担当者の方に細かく確認しながら進めていました。しかし、留学先の方からその進め方だとスピード感に欠けるし、もっと自分で判断しないといけないとフィード

バックをいただいてからは軌道修正しました。留学期間が3ヶ月と限られていたので、高速でPDCAを回さないといけない状況でした。留学先では、“P”に時間をかけず“DCA”を高速で回していたので、新たな業務の進め方を学ぶことができました。

また、途中でミッションを見失った時期がありました。最初の1ヶ月は、留学先の課題がわからず、自分が何をすべきか全く見えていませんでした。営業やカスタマーサクセスの方などと話をする中で人手が足りていないことに気づき、「それなら私が何でもやります」と言って本来のミッションとは異なることまで対応していた時期がありました。

ただ、2ヶ月目に入って今回与えられたミッションとは違うことをしているのは自分のバリュー発揮に繋がらず、もったいないと気づいてからは改めて自分のすべきことを考え直し、行動を変えました。周りとの調和を図ることは大事なことですが、ミッションを遂行していく上では周りの顔を伺い過ぎてはいけない、感情的な部分まで持ち込んではいけないと気づくことができたので、コミュニケーションの在り方についても考えさせられる機会になりました。

それから、プロジェクトの最終的な成果としては、初めから「絶対に成果を出す」と決めていたものの、3ヶ月で売上に直結するようなことができなかつたことが自分の中では心残りでした。プロジェクトの一環で留学先の顧客企業へDMを送ったのですが、反応が芳しくありませんでした。ただ、他社留学が終わってから、私が作った営業資料をきっかけにアップセルに繋がった案件ができたそうなので、その報告を聞くことができたときはとても嬉しかったです。

## 新たな行動により別の課題が見えてきた

――今回は週1回の参画だったとのことですが、所属企業の業務と兼務するのは大変でしたか?

**三瓶** そうですね、本業と並行して進めていくのは大変でした。伴走者にも相談してアドバイスをもらってからは、他の人に協力してもらいながら進めていくことにしました。私は約4年間採用業務をやってきましたが、これまであまり他の人に頼って仕事を進めてこなかった気がします。しかし、自分がやってきたことを周りに伝えていかないと、いつまで経っても採用という枠から抜け出せないですし、もっと色々な経験をした方が自分のキャリアにとってもプラスになると思ったので、**自分が手を動かさなくてもいい体制作り**を徐々に進めていきました。このようなことも**経営者目線**に繋がると思いますが、今後のキャリアを積んでいく中で大事な視点を得ることができたと思います。



(写真右：三瓶様)

一方で、どこまで教えればいいのか、という新たな課題にぶつかっています。大まかな指示で動いてもらった結果、最終的なアウトプットが求めているものと異なったこともありましたが、求めているアウトプットを出してもらえようように細かく丁寧に時間をかけ過ぎてしまったこともありました。どの程度の指示でアウトプットできるかは人によっても違うので、**人それぞれに応じた関わり方**を試行錯誤しているところです。伴走者からも「ただ指示するだけではなくて、これを通じてどう成長できるかも伝えていけるといい」とアドバイスをいただいたので、それも参考にしていきたいと思っています。

——留学先の方から、三瓶さんの「謙虚さ、素直さ、仕事が丁寧である点」などを評価していただいたと聞きました。

**三瓶** ありがとうございます。「丁寧」という点に関しては私の強みだと思うのですが、スピード感がないということと裏返しだとも思ったので、悩ましい部分です。丁寧にきっちり仕事をすることも大事ですが、スピード感を持って仕事を進めていくことも大事ですよね。当社は留学先とは規模や業種、組織体制も異なるので、留学先と同じようにはできません。社内承認を得るときの効率的だと思う進め方があるのですが、スピード感を持って進めていけるよう見直しが必要なのかもしれません。

## 多くのことを学び、自信にも繋がる経験ができた

——他社留学に参加してどんなことを学びましたか？

**三瓶** 総じて色々なことを学びました。**能動的に動くことの重要性**を感じることができましたし、自分の「採用」の知識が**他社でも役立つ**ことを知ることが出来ました。中でも特に大きな学びが「**経営者目線**」を持つことでした。同い年で取締役をされている方がいて、会社の重要な意思決定をされているのを目の当たりにして、非常に刺激を受けました。その方は経営者目線を持ち、会社のリソースを踏まえた上で、短期間でどれくらい会社をスケールさせるかを常に考えていました。これまで私は人事・採用担当者という枠組みの中で頑張ってきたつもりでしたが、部署全体・会社全体を見る意識が欠けていたことに気づきました。

——組織の違いを通して学んだこともありましたか？

**三瓶** **意思決定の速さ**は学ぶべきところだと思いました。お客様や市場を見て、その時々に応じて方針を転換していく柔軟性はすごいと思いました。また、留学先でのコミュニケーションも参考になりました。フルリモートということもあって、ツールを使って普段から頻繁にコミュニケーションを図っていました。当社もオンラインで仕事をすることもあるので、取り入れたい部分だと思いました。

逆に、社外に出ることで当社の**リソース(人、モノ、情報など)**が恵まれていることなどにも気づきました。教育体制が整っており、何か困った時には周囲がフォローできる体制が整っていること、ツールや設備面や施策を打つ時の予算等は比較的確保しやすいこと、社内で蓄積されている過去の経験や情報を踏まえた上で課題や仮説が立てやすい環境にあることなど、たくさんの良い面にも目を向けることができました。



(写真：三瓶様)

— 色々な学びを得ることが出来て、良い時間を過ごすことができたのですね。

**三瓶** そうですね、色々学んだことがあったのですが、**自分の自信に繋がった**部分もありました。一社で働き続けていると、採用担当者としての自分のキャリアがどれだけ価値のあるものなのか、一般的にどう評価されるかがわかりませんでした。しかし、今回留学先のプロジェクトに参画することで、採用担当者の経験がHR系の会社や人事向けサービスを提供している会社の中では非常に重宝されることがわかり、自信になりました。このような気づきがある他社留学を**勤務中に経験させていただき、会社には本当に感謝**しかないです。

— 今回の他社留学で学んだことをどう組織に戻って活かしていますか？

**三瓶** 4月から人事部の採用グループから企画グループへ異動になりました。これまでとは業務の内容が異なるため、まずはインプットする必要がありますが、今回の他社留学で学んだ能動的に行動すること、スピード感を持つことを意識しながら業務に取り組んでいます。また、企画グループは、従業員の働き方や組織を発展させていくための施策を検討する部署なので、留学中に学んだ「経営者目線」がより求められる立場のため、実践を続けているところです。留学後からは「経営」に関わるような本を読むなどして知識の習得も続けているので、より高い視座を持って行動を続けることで、より良い組織作りへ貢献していきたいと思っています。

#### < 留学先からのコメント >

～EDGE 株式会社 小中様より～

三瓶さんは素直で謙虚なお人柄で、フィードバックしたことをすぐに取り入れ改善していくことができる力をお持ちでした。成果に対しては貪欲であり、高いアウトプットをコミットしたいという熱意も強く、特に後半の動き方の変わりようが素晴らしかったです。採用担当者としての目線や考え方、三瓶さんならではの思考でアウトプットしていただき、弊社としても非常に学びの多い期間でした。私やメンバーにとっても刺激のある良い機会になったと思います。3ヶ月間本当にありがとうございました！

---

会社名 SMBC コンシューマーファイナンス株式会社

---

業種 貸金業・保証業

---

URL <https://www.smbc-cf.com/>

---

## カゴメ株式会社 × 株式会社アルプロン様の導入事例

「ベンチャー企業ならではのスピード感と内省を継続することで未知なる自分・ブレない自分に出会えた」

(職種：研究職、頻度：週5日、留学時：新卒入社25年目)



他社留学を終えて元の職場に戻った「卒業生」にインタビュー。留学中、留学後の想い、そして「留学後に何が変わったか」について、体験談を語っていただきます。

所属	カゴメ株式会社
留学先	株式会社アルプロン
他社留学期間	週5日/1年間 (2019年10月～2020年9月)
留学した人	相澤 宏一さん (留学時：新卒入社25年目)
送り出した人	イノベーション本部長 上田 宏幸さん

今回お話を伺ったのは、カゴメ株式会社。他社留学を経験したのは、新卒入社後、食品機能性研究に携わってきた相澤 宏一さんです。プロテイン事業を手がけるベンチャー企業、株式会社アルプロンへの留学を経験しました。プロテインを中心に、プロテイン協会の運営や島根県健康プロジェクトを通じた高齢者支援や高齢者向け商品開発など、さらに出向先の組織改定や課題執行にも深く関与していただきました。

<p><b>目的</b></p>	<p>修羅場経験、経営のスピード感を体験し、社内の研究アセットの事業化をリードする人財となる</p>
<p><b>背景</b></p>	<p>野菜とは異なる“食” 関連企業とのネットワークを形成し、事業提携、研究協業、コラボ企画、人財交流など連携の推進者となることを期待、野菜プラスアルファの健康長寿に対する効果や今後の可能性を見つける</p>
<p><b>効果</b></p>	<p>内省を継続することで未知なる自分・ブレない自分に出会えた／スピード感、視座の変化</p>

## 様々な気づきを得て成長した1年間

—早速ですが、所属企業に戻られていかがですか？

**相澤さん（以下、相澤）** 出向前後での見える景色の違いに驚いています。カゴメに戻ることが正式に決まり、留学当初に書いたレポートを見返してみたのですが、とても初々しく感じました。当初はいろいろなことにビックリして、驚きの連続だったのですね。今ではずいぶん“**図太くなった**”と思います。また私の場合、上司が1年間を通じ、留学の内容やどんなプロセスだったのかを、ほとんど認識していたので、そのギャップも含めたサポートが得られており、とてもありがたかったです。

—1年間の留学中、内省を進めてみてどんなことを感じましたか？

**相澤** 内省することの良さを学びました。毎日、毎週、振り返りの時間を作っていたので、明日からは、また来週からはこうしよう、と常にPDCAを回すことができたと思います。特に、伴走者の西村さんには、自分の感情の動きをウォッチし、定期的にディスカッションするように指導いただいていたので、改めて自分はこんなことを感じていたんだなって思

い、**見えないことを可視化することの重要性**を学びました。なぜ自分は働いているのか、どんなことに興味を持っているなど、**深い考えをするようになった**気がします。



(写真 相澤さん)

—自己認識が深まったのですね。

**相澤** そうですね、自分のやりたいこと、やりたくないことなども真剣に考えました。自分は何のために生きていて、何のために仕事をしている、など、今まで考えたことがなかったようなことも深く考えることができたと思います。私は「人の笑顔が見たい」「人々の困った問題を解決したい」という想いがベースにあって、**人を幸せにすることにやりがいを感じていた**ことに気づきました。

## 新部署で留学中に学んだことを活かす

— 会社員としてだけでなく、個人としても色々気づきがあったのですね。一方で、留学中に気づいた自分自身の弱みはどんなところでしたか？

**相澤** いわゆる「行儀の良さ」です。社外の人脈や、外に出る積極性なども弱い部分だと感じました。留学先の役員の方にも「所属企業に戻って社内にもってしまおうのか、それとも引き続き外に出て積極的に活動をしていくのか、そこが勝負だよ」と言っていました。これまでの仕事は、社内の人脈とツールでどうにか対応していくことができました。でも、自分が本当にやりたいことをするのであれば、今あるコンテンツだけでなく、**積極的に外に出て取りにいったり、人と連携したりしなければならぬ**と気づきました。

— 所属企業に戻られて、新設の新規事業開発ラボの責任者に配属されたと聞きましたが、いかがですか？

**相澤** 今回の留学で学んだこと、また留学先で得た人脈が活かせる部門だと思っており、ワクワクしています。1年前と同じ行動ではつまらない、周囲から「変わったな」と思われる行動をすることが、留学先や今回の留学でお世話になった方々への恩返しだと思います。早速、カゴメ内での打ち合わせでは、留学先で学んだ様々な提案をしたりしています。数か月後や数年後ではなく、この3ヶ月でこれからが決まると思っています。

— スピード感も変わりましたね。

**相澤** 何度か打ち合わせを行いました。一年前の自分ならこんなことを考えた、でも今ならこう考える、といった違いが感じられます。その一つは**スピード感**ですね。中長期的に進めている課題も、環境変化のスピードを考えると全然遅い、と思うようになりました。この1週間、1ヶ月で何をやるかが重要だと思います。

— メンバーとの関わりはどうか？

**相澤** 新設の部署で、初めて同じグループで仕事をする方ばかりなので、コミュニケーションを取り始めたところですが、様々なキャリアを経験した方々ですので、すごく楽しみです。留学先でのコミュニケーション方法をうまく取り入れながら、効率的、かつ忌憚のない情報交換を進めようと思っています。先日、上司と話した際には、「**視点が変わったね**」という言葉いただきました。



(写真左：相澤さん 右：株式会社アルプロン社長 坂本雅俊さん 撮影：株式会社ハイワークス)

## 今後に向けての想い

— これからの3ヶ月、1年後など、ご自身のイメージはありますか？

**相澤** 3ヶ月の行動計画はあるものの、1年後のイメージはまだ明確ではありません。むしろ**P D C A サイクルを早く回し、走りながら考える**、ということが重要だと思います。あえて1年後を想像するのであれば、今回、副業を認めてもらったということもあり、カゴメの仕事をやりつつ、社外のことなども取り組み、もっと大きなフィールドで戦っているイメージがあります。

また、**自分自身の更なる成長も必要**だと感じています。新型コロナウイルスの影響もあり、出勤の時間が減ったというのも大きいです。時間ができた分、自分の成長につながる時間を取っていきたいです。新しいことを学ぶのは好きですが、知識だけでなく、経験、体験を増やしていきたいです。



――今後に向けて、他に何かお考えになっていることはありますか？

**相澤** そうですね、今回の経験や気づきを、どう社内のメンバーに伝えていこうか、ということを考えています。社外には、たくさんの活動的な、魅力的な人がいる、ということも含め、伝えていきたいなと思います。

最近メンバー同士で、収益も大事だけど、会社

の将来にとって、また世の中の人のために我々は何ができるか、ということをお話することがありました。外に出て分かったカゴメの強みや「世のため人のために」というメンバーの方々の熱い想いを新事業にも反映させていけたらと思っています。留学中にたくさんの素晴らしい人脈ができました。そういった新たな人脈も大切にしながら、自分にできることをメンバーと協力しながら進めていきたいと思っています。

---

会社名	カゴメ株式会社
業種	食品事業
URL	<a href="https://www.kagome.co.jp/">https://www.kagome.co.jp/</a>

---

# 株式会社テレビ朝日 × ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス合同会社様の導入事例

「集中して前のめりに吸収した3ヶ月、周りを巻き込み行動する力がついた」  
 (職種：人事、留学頻度：週1日、留学時：新卒入社26年目)



他社留学を終えて元の職場に戻った「卒業生」にインタビュー。留学中、留学後の想い、そして「留学後に何が変わったか」について、体験談を語っていただきます。

所属	株式会社テレビ朝日
留学先	ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス合同会社
他社留学期間	週1日/3ヶ月間 (2022年4月~2022年6月)
留学した人	人事局厚生労務部 鎌田 睦さん (留学時：新卒入社26年目)
送り出した人	人事局厚生労務部長 関 知栄さん

今回お話を伺ったのは、株式会社テレビ朝日。他社留学を経験したのは人事局厚生労務部の鎌田さんです。留学先はユニリーバ・ジャパン・ホールディングス合同会社。世界約 190 カ国にて、ラックス、ダヴ、クリア、アジフ、ドメストなどのブランドを展開し、毎日 25 億人以上から選ばれている世界最大級の消費財メーカーです。留学中は、人事の知見を活かし、業務の可視化／効率化および、人事制度規定の改定案策定に取り組みました。

目的	組織開発・人材開発に関する考え方・進め方・実現方法の習得
背景	異なる業界での経験を通じて多様な価値観や発想、知見、人脈を得るなど、これまでにない形でリーダー人材を育成する必要があった
効果	組織の色々な違いを目の当たりにして組織開発・人材開発における新たな考え・視点・手法を学ぶことができた／自分の強みが他の企業でも活かせることが実感でき今後の成長課題が見えた

### 3ヶ月という短い時間だからこそ集中して頑張れた

――まず初めに、今回の留学ではどのような業務を担当されたのですか？

**鎌田さん（以下、鎌田）** 今回は人事のキャリアを活かして、人事部の業務に携わりました。1つ目は、人事サービスチームのサービスオペレーション向上のため、業務可視化・プロセスマップ作りと社内イントラサイトの刷新、2つ目は、人事制度規定の改定や新運用における情報整理や改定案のまとめサポートを行いました。

――留学について改めて振り返ってみて、いかがですか？

**鎌田** 本当に今回貴重な経験をさせていただき、参加して本当に良かったです。3ヶ月は短いと思っていましたが、濃い時間で私にとっては十分でした。留学先での業務内容も所属企業での業務と近い内容だったので、スムーズに入っていくことができました。また、3ヶ月という限られた時間ということもあったので、**自分の会社に持ち帰れそうなところだけに注力した**というのがあります。自分の担当業務以外にも色々できそうなことはありましたが、無理をせ

ず吸収したいところに絞って関わるようにしました。**3ヶ月という短い時間だったからこそ、集中して頑張れた**というのもあるかもしれません。

――充実した3ヶ月間になったのですね。

**鎌田** そうですね、最初から**前のめりになって関わるようにした**のが良かったのではないかと思います。短い時間なので、**楽しもうと思った**の也有ります。ユニリーバの皆さんは個性的で色々なバックグラウンドをお持ちで、一人一人全く異なっていました。留学前にチームメンバーの皆さんと1on1ミーティングで話す時間を取っていただけだったので、色々な人から早い段階で色々な話を聞くことができ、スタートダッシュできました。

3ヶ月間、ハードではありましたが、留学の終盤は終わってしまうのが寂しかったです。最後に留学のまとめとして、ユニリーバ内で報告会の時間をいただきました。短い時間だったのですが、私の報告というよりは皆さんからのフィードバックの時間を長く取っていただきました。事前に私に関するアンケートを取って準備もしていただいたようで、すごく感激しました。所属企業では、文化としてあまりこのような機会がなかったんですよ。

— 留学中は毎週のレポート提出があったと思いますが、大変でしたか？

**鎌田** 留学先の業務に加え所属企業の仕事もあったので、毎週作成するのは大変でした。何もしなければ書くこともないので「レポートに書ける内容を作らないと！」とモチベーションの一つになっていました(笑)。これまで日報などは手間がかかって大変だというイメージがありましたが、文字にすることで**自己内省や行動するモチベーション**に繋がり、良い効果を実感できました。



(鎌田様：写真左)

## 強みを活かし良い関係性を構築

— 留学先の皆さんと良い関係性を作ることができたのですね。

**鎌田** はい。留学先の方々とは必要なコミュニケーションを取りながら、信頼関係を作って業務を進めていくことができました。一緒のチームになった方とはたくさん話をすることができて良かったです。一方で、接点が少なくあまり会話ができない人もいました。ユニリーバの皆さんは色々な個性のある方だったので、今思えば躊躇せずもっと話せば良かったなと思いました。

— 留学先は全くの別業界でしたが、貢献できている感覚はありましたか？

**鎌田** 自分が得意な分野については貢献できたと思うので、**自分の強みが他の企業でも活かせることが実感**できました。3ヶ月という短い時

間だったので、自分の力がすごく伸びたというよりは元々持っていた能力を活かすことができましたと思います。人事の業務は業界が異なっても共通することは多いですし、ツールを駆使してデータからアプローチするのは得意なので、その部分で貢献できました。逆に、私の苦手なことが得意な方がいて、そこはお任せして協力しながら進めることができました。

— 周りの方を巻き込みながら進めていったのですね。

**鎌田** そうですね、留学先に対しては自分のできる範囲で貢献しましたが、1ヶ月過ぎた頃から留学先で学んだことをどのように所属企業へ活かしていくかを意識するようになり、社内外問わず、周りを巻き込むように行動していきました。ユニリーバの方が社外を巻き込んだイベントを企画したときには、当社の社員も参加してもらおうように動きました。

実は、そのイベントのアナウンスがあったときに、非常にビックリしたんですね。というのも、社外の方を巻き込むようなイベントの場合、すごく前から時間をかけて準備をしていると思っていたのですが、そうではなかったんです。企画内容が決まったらすぐに日付と場所を決めて「さあ、やりましょう」という**速いスピードで進めていて、フットワークの軽さ**を感じました。そんな簡単に色々な会社の人を巻き込んで進めることができるのかと刺激を受けましたし、私自身もそのような心持ちでやらないといけない、私もやってみよう、と思った出来事でした。

— 周りの方を巻き込むことに対するハードルが下がったということですね。

**鎌田** フットワーク良くイベントを行う事例を実際に見て、意識が変わりました。エッセンスでも「組織の成長や変革を促すには、まず半径5mの人を巻き込んで行動していきましょう」と伝えていると思いますが、留学を通して私も半径5mにいるチームメンバーを巻き込みながら仕事をしていこうという気持ちになりました。

以前、留学を開始してすぐの頃、エッセンスの他社留学ラボに参加して、卒業生と話す機会がありました。私以外の方は皆さんすでに留学を終えられて、所属企業に戻ってからしばらく時間が経過している方々だったのですが、「留学で学んだことをすぐに所属企業に取り入れて組織全体に影響を与えるのは簡単なことではない、だからこそ社内に同じ想いを持っている仲間を見つけて活動を続けていくことが大事」という話を聞きました。私もそういう仲間を見つけるためには、大掛かりではなくても**小さく発信を続けて同じ想いの仲間同士で繋がっていくことが大事**だと思えるようになりました。

## 留学先でかけられた言葉に影響を受ける

——留学を通して成長したと感じたことはありましたか？

**鎌田** **小さな行動を起こすこと**に意識が向くようになり、他者に期待するのではなく自ら行動を起こしていく力が身に付いたと思います。留学先の方に「“何をどうしたい”があるのはいいけれど、その先の“何をやる”までしっかりと考えたほうがいい」と言われたのが心に響いて、意識が大きく変わりました。

——留学先の方の言葉に影響を受けたのですね。

**鎌田** そうですね、他にも「苦手なことを苦手だと思わなくていい」という言葉も響いた言葉の一つです。これまでは、苦手なことも全て自分でやらなければと思い込んでいた気がします。得意なことはできるのでいいのですが、あまり得意でないことがあった場合でも、何とか自分でできるように頑張っていました。そのため、自分のできないことにフォーカスする癖がついてしまったんです。

しかし、今回の留学で自分の得意なことで貢献して、得意でないことは自分以外のできる人にお任せする経験をする中で、周りとの協力する素晴らしさがわかりました。少し前に「弱みが強みにはなることはない」という言葉を聞いた

のですが、それが留学先の経験を通して腑に落ちました。所属企業でも、**すべて自分でやろうとするのではなく、苦手なことが出てきたら得意な人に頼っていけるようになる**と皆が幸せに働けるようになると思えました。



(写真：鎌田様)

## 留学先に飛び込んだからこそ見えてきたもの

——留学することで気づいた所属企業の優れた点がありましたか？

**鎌田** ユニリーバの方にも言っていたことですが、当社は**離職率が低く愛社精神が強い**のではないかと、ということです。これまでは離職率が低いことに関して、外の風を取り入れにくいのではないかとネガティブな側面にフォーカスしていました。しかし、留学を通して離職率が低いということは安心して働ける環境であり、長く働くことが当然だと思っていることが前提にあって、実はそれは価値が高いということがわかりました。中途採用が多いと採用コストがかかりますし、もっと当社の良い面に目を向けて長く働くことを強みとしていきたいです。

また、メディア企業ですので**知名度がある**ことも強みだと気づきました。社外に出ることで当社に対する色々なイメージについて話を聞くこともできました。小さな事業を始めるときも知名度があるとプラスになりますし、知名度を活かした戦略作りができたらいいですね。

――逆に、所属企業の課題だと感じたことはありましたか？

**鎌田** 社内外への発信力は強化が必要だと感じました。ユニリーバは社内外への発信力が強く、ブランディングも優れています。当社はメディアということもあって、会社としての取り組みを発信しなくても知名度を維持することができ、採用においても良い人材が確保しやすいのですが、これからの変化が激しい時代においては発信力が必要になると感じました。また、当社はこれまで離職率が低いこともあり同質性が高いので、社内言葉で言葉を尽くして説明する必要性をあまり感じてきませんでした。しかし、時代が変わり新しい世代が入ってくることで、徐々に価値観の違いによる問題が起こるようになってきました。今後は社内でも**よりコミュニケーションを活発化させて、多様性を受け入れる文化**を醸成していきたいです。

――留学先の文化で取り入れたいと思ったことや優れていると感じたことはありましたか？

**鎌田** ユニリーバでは「**フィードバック文化**」があり、日常会話でも当たり前のようにフィードバックをするんですね。これがとても新鮮でした。最初の頃、1on1ミーティングをしたら、相手の方が「これからフィードバックします」と言って話してくださったことに本当に驚きました。しかし、3ヶ月間フィードバック文化に触れて、この文化の良さを体感でき、ぜひ当社にも取り入れたいと思いました。留学先以外の会社のイベントに参加したときも最後に主催者に対して参加者が「フィードバックは大事なギフトです」と言ってフィードバックをしている姿を見て、より取り入れたい気持ちが強くなりました。

当社の場合も評価面談で年に1回フィードバックする機会がありますが、日常的に行われているわけではありません。今後社内でもフィードバック文化を広める場合、いきなり「1on1ミーティングをやってください」とお願いしても実施する目的や意義、やり方がきちんと伝わっていないければ単なる形だけに過ぎない手間のかかる業務になってしまいます。社内に取り入れるの

であればその点を考慮して、ステップを踏みながら進めていく必要があると思います。

それから「**言語化する力**」の素晴らしさを感じました。ユニリーバでは、「パーパスワークショップ」という過去を振り返って自分の譲れない価値観に気づいて各自のパーパスを言語化する取り組みがあるのですが、参加させていただき、皆さんの言葉の強さを感じました。ワークショップ以外でも日常的にパーパスについて話す文化が根付いており、皆さん言葉選びのセンスが良く、一つ一つの言葉に強さが伴っていました。ユニリーバは、外資系なので当然日本語だけでなく英語も多く使うのですが、日本語に比べて文脈に頼れないので、適切な言葉を選んだり説明したりする力が磨かれるという話も聞きました。



(鎌田様：写真右)

## 留学後の変化と今の想い

――では、留学後は留学で学んだことをどのように活かしていますか？

**鎌田** まずは、**会議の見直し**を行いました。ユニリーバで有効に機能していたいくつかの会議を参考に、改めて必要な定例会議を検討し、7月から新しい会議の運用を開始しています。また、今回私自身が他社留学を経験することで「**越境学習の場**」が**有効であること**がわかったので、社内の意欲ある人材に対して成長機会を提供できるよう準備を進めているところです。

また、**働き方改革**をさらに一歩進めるための取り組みを始めました。ユニリーバではHRBPと

社員が密に会話をしていたので、私も意識して色々な社員と働き方について話したんですね。そして一人一人考えていることはたくさんあるものの、一人の力ではどうしてもできないことが多くあることがわかったので、個々の声をまとめた声にすることが必要だと感じました。まだ取り組みは始まったばかりですが、まずは育児中の社員がいる職場の働き方を改革すべく社内サポーターを募り、今後本格的に進めていく予定です。

それから、**女性社員に向けたキャリアを考えるワークショップ**の開催に向けた企画も進めています。ユニリーバでは、管理職の女性も多く、活躍している女性がたくさんいらっしゃいました。また、性別に加え、年齢も関係なく活躍している点が印象的でした。働き方改革と女性活躍推進についてはセットで考えていくことだと思いますので、仲間を集めながら進めているところです。

— 留学後、周りの方から何か変わったと言われることはありましたか？

**鎌田** 留学後、チームメンバーに対して前向きな言葉がけをするようにしています。それを上司が見ていて、**留学前と留学後の変化について周りに伝えて**くれています。自分で話すよりも周りが話してくれると説得力が増します。留学して楽しかったらしい、という伝わり方では留学した意味がないので、上司が話してくれるのはありがたいことです。

— 色々変化が出てきているんですね。先ほど取り入れたいとお話されていたフィードバック文化はいかがですか？

**鎌田** そうですね、フィードバック文化を広め

るために半径 5m のチームメンバーに対してのフィードバックを行うことは留学中から実施するようにしていたのですが、留学後も継続して行っています。ただ、チームメンバーからは「急激に変わることはできない」という言葉ももらっているので、徐々に広めていけたらいいなと思っています。

やりたいことはたくさんあるのですが、チームメンバーも現状の業務が忙しく、私の思いだけでは進められません。他社留学で学んだことを活かしたい、組織をより良くしていきたいと焦る気持ちはありますが、急激に変えていくことはできないので**焦らずチーム全体の状況を見ただ上でスムーズに進められるよう行動を続けたい**です。留学の経験自体が重要ではありますが、留学後に所属企業に戻ってからが本番なので、引き続き頑張ります。

< 留学先からのコメント >

～ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス合同会社 岡田様より～

3ヶ月という短い期間ではありましたが、良い関係性を作ることができました。インプットの時期を終えてからは、当社が求めるものに対してしっかりと価値提供していただき、積極的に動いていただきました。留学期間を通して、学びたいという意欲が非常に伝わってきました。自分の学びを自分の中に留めるだけでなく、周りに伝えようという姿勢が本当に素晴らしいと感じました。人を巻き込んで行動していく中で大変なことも出てくるかもしれませんが、諦めずにその先にある「やりたいこと」「ビジョン」に向けてリーダーシップを発揮しながら仲間と共に実現して行ってください。3ヶ月間、ありがとうございました。

会社名	株式会社テレビ朝日
業種	放送法による基幹放送事業および一般放送事業
URL	<a href="https://company.tv-asahi.co.jp/">https://company.tv-asahi.co.jp/</a>

# エッセンスが提供する越境研修サービス

## 他社留学

自社から飛び出し、一定期間、他社で他社のプロジェクトに参画する、越境型の研修です。未知の会社やメンバーとともに、プロジェクトを達成することを通して課題発見や課題解決を生きたテーマで実践的に学んでいきます。



事前コンサルティングに基づき、留学先をマッチング。留学テーマの設定や留学中の伴走も手厚くサポートを行いながら、プロジェクトに取り組んでもらう

### ■効果・メリット

所属する企業	<ul style="list-style-type: none"><li>新規事業のアイデア創出</li><li>事業開発におけるマインドの習得</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>次世代リーダーの育成</li><li>経営幹部の視座、視野の獲得</li></ul>
個人	<ul style="list-style-type: none"><li>異文化、異環境での協働の機会</li><li>他社からのフィードバックによる自己理解</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>生産性の向上（ナナサン（週1日）の場合）</li><li>社外人脈の獲得</li></ul>
受け手企業	<ul style="list-style-type: none"><li>無料での人材参画</li><li>ノウハウ・知見の獲得</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>社内の活性化</li><li>客観視点による課題の可視化</li></ul>

## プロボノプログラム itteki

様々な企業出身のメンバーでチームを組成し、一定期間、ソーシャルベンチャー企業等の課題発見、課題解決を行うプロジェクトです。多様なメンバーとともに課題解決をするという経験そのものが、大きな学びとなります。



5社から10名ずつ程度（全およそ50名）がプログラムに参加

混成チームをつくり、受け入れ先であるソーシャルベンチャーやスタートアップにて40日間に渡り活動する

### ■効果・メリット

所属する企業	<ul style="list-style-type: none"><li>キャリア自律の促し</li><li>社会課題との接触（SDGsの実践）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>セカンドキャリアへの選択肢</li><li>社内起業・副業のトライアル</li></ul>
個人	<ul style="list-style-type: none"><li>社会貢献</li><li>異環境での腕試し</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>自身への客観視点の獲得</li><li>人脈の拡大</li></ul>
受け手企業	<ul style="list-style-type: none"><li>無料での人材参画</li><li>ノウハウ・知見の獲得</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>社内の活性化</li><li>客観視点による課題の可視化</li></ul>

【お問い合わせ】 エッセンス株式会社 越境研修事業部

Tel 03-6661-7747 E-mail [mk@essence.ne.jp](mailto:mk@essence.ne.jp) HP <https://www.essence.ne.jp/>